

# 中期財政計画 工程表

～財政健全化に向けた取組方針～

令和8年2月

静岡県

# 概 要

## 策定の趣旨

- R8当初予算を踏まえた中期財政計画のローリング（試算）を実施した上で、中期財政計画の目標達成を確実なものとするため、財政健全化に向けた取組方針及び具体的な取組を示す

## 財政健全化に向けた取組方針

- 【収支差】 不断の見直しにより収支差（ミスマッチ）を縮小させるとともに、必要な財政調整用基金残高を確保（目標：500億円）
- 【資金手当債】 R10に発行ゼロ
- 【県債残高】 R16末に通常債残高を1,000億円程度削減（R6末比）  
⇒ R10末に通常債残高を300億円程度削減（R6末比）

## 主な取組内容

- 定員適正化計画の実行（今後の人口減少を踏まえた職員数の適正化）
- ファシリティマネジメントの推進（県有施設の総量適正化）
- 投資的経費の見直し（大規模プロジェクト等） ほか

# R8当初予算を踏まえた財政見通し（収支差）

R8当初予算 の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>サマーレビューによる事業見直しや国庫等の確保努力により、R8当初予算の収支差は縮小</u> （△640億円（編成通知時試算）→ △285億円（今回））</li> <li>○ 当初予算編成後の<u>財政調整用基金残高は、54億円→180億円まで回復</u>（R8給与改善費60億円を積立）</li> </ul>
今後の 取組方針 （目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後の収支差は、R7.2試算と比較して改善しているものの、義務的経費の伸びなどにより、自然体では拡大する見込み</li> <li>○ 収支差縮小のために、R8当初の取組成果に加え、<u>不断の見直しを実施</u></li> </ul>

## <収支差(当初予算編成時)>

（単位：億円）

区 分		R7	R8	R9	R10
R7.2試算（※R8は編成通知時試算額）		△550	△640	△562	△548
今 回 (R8当初反映)	自 然 体	△550	△285	△292	△335
	不断の見直し	(136)	(166)	不断の見直しが必要	
	改革反映	△550	△285		

# R8当初予算を踏まえた財政見通し（県債残高）

R8当初予算 の取組	○ <u>資金手当債の発行額を漸減（R7：80億円、R8：50億円）</u>
今後の 取組方針 （目標）	○ 財政健全化と未来への投資への両立を実現するため、 <u>資金手当債の発行を解消（R9：30億円、R10：0億円）</u> ○ <u>R16末に通常債残高を1,000億円程度削減</u> （R6末比） ⇒ <u>R10末に通常債残高を300億円程度削減</u> （R6末比）

## <通常債残高の推移>

（単位：億円）

区 分		R6	R7	R8	R9	R10
R7.2試算	資金手当債発行額	70	90	90	90	90
	通常債残高	15,845	15,809	15,767	15,793	15,762
今 回 （R8当初反映）	資金手当債発行額	70	80	50	資金手当債の 発行を解消	
	通常債残高	15,846	15,828	15,714		

# 財政見通しの試算方法

○ 以下を前提条件として試算

区 分		主な推計方法
歳 出	義務的経費	[人件費]給与改定+2%/年(～R10) [扶助費]高齢者人口等に基づき推計 [公債費]金利3.0%(10年債)ほか
	税収関連法定経費	税収に連動して推計
	投資的経費・その他	大規模事業：年次計画額、その他：R8同額
歳 入	県税・地方交付税等	一般財源総額(～R10)：+2.1%/年(R6～8地財伸び) 一般財源総額(R11～)：+1.3%/年(直近10年本県伸び)
	県債	<u>資金手当債：R10に発行ゼロ</u>
	国庫支出金等	歳出と連動して推計

○ 不断の見直しによる効果額として、50億円/年を見込む

# 今後の取組方針 ①

- 不断の見直しによる収支差（ミスマッチ）の段階的な縮小と  
必要な財政調整用基金残高の確保（目標：500億円）

<収支差（ミスマッチ）と財政調整用基金残高の見通し（当初予算編成時）>

（単位：億円）

区 分	R7	R8	R9	R10	R16
収支差（R7.2試算）	△550	※△640	（△562）	（△548）	（△520）

※R8は編成通知時の試算

サマーレビュー等により水準が改善

収支差（今回試算） A	△550	△285	△242	△235	△200
うち不断の見直し	136	166	50	50	50
財政調整用基金残高 B	54	180	255	318	565
収支差＋基金残高 A+B	△496	△105	＋13	＋83	＋365

# 今後の取組方針 ②

- R10までに資金手当債の発行額をゼロ
- R16末に通常債残高を1,000億円程度削減 (R6末比)  
⇒ R10末に通常債残高を300億円程度削減 (R6末比)

<通常債残高(決算ベース)>

(単位：億円)

区 分		R6	R7	R8	R9	R10	R16
R7. 2試算	資金手当債 発行額	70	90	90	90	90	90
	通常債残高	15,845	15,809	15,767	15,793	15,762	15,848
工程表(今回)	資金手当債 発行額	70	80	50	30	0	0
	通常債残高	15,846	15,828	15,714	15,600	15,475	14,792

Δ371

Δ1,054

# 歳出・歳入の見直し方針

○改革強化期間中(R8～R10)において、不断の見直しを実施  
R8の取組成果(△166億円)を維持しつつ、R9、R10で50億円/年を見直し

## <見直しの基本方針>

- ・ 今後の人口減少を踏まえた職員数の適正化
- ・ 人口減少に対応した県有施設の総量適正化
- ・ 費用対効果や政策目的等を踏まえた投資的経費の見直し
- ・ 金利上昇局面における県債調達方法の見直し
- ・ コストを意識した事務事業の効率化やメリハリ付けの徹底
- ・ 真に税收増加に繋がる事業への転換を図り、歳入確保を強化

# 改革強化期間における具体的な取組

- 中期財政計画の目標達成に向け、改革強化期間における  
具体的な取組を工程表に位置付け <目標額> R9、R10：△50億円／年

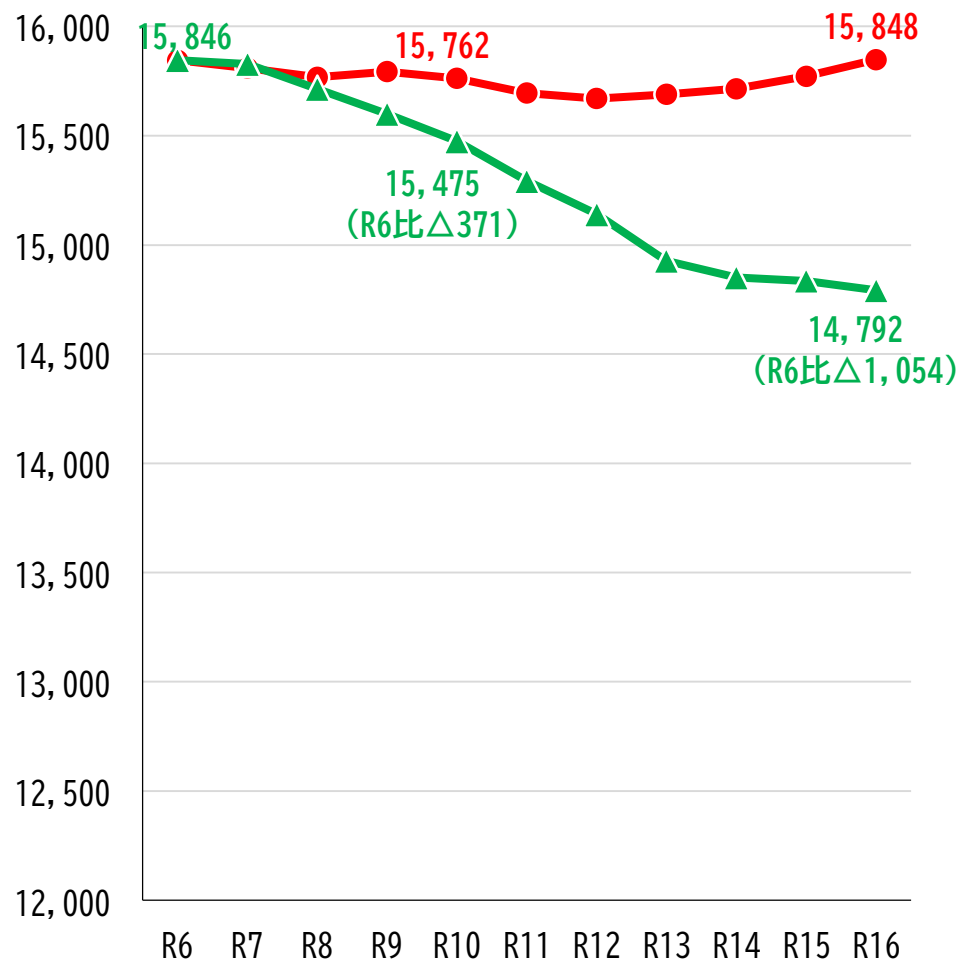
## <主な取組>

区 分	R7	R8	R9	R10
人 件 費	定員適正化 計画策定	定員適正化計画の実行(職員数の適正化)		
ファシリティ マネジメント	県有施設の あり方に関する 方針策定	各施設のあり方 の方向性決定	・ 中期維持保全計画等の見直し ・ 維持管理コストの最適化	
投 資 的 経 費	・ 国庫の最大限活用、繰越額の縮減 ・ 大規模プロジェクトについて、実施時期や規模、運営手法等を検討 ・ 費用対効果、政策目的等を踏まえた個別施設整備計画の見直し			
そ の 他	・ 県債調達方法等の見直し（県債発行年限の短期化ほか） ・ 県単独補助金の総点検及び補助率等の見直し ・ 外郭団体の点検・評価、あり方検討 ほか			

# 財政指標の推移①

## 県債残高(通常債残高)

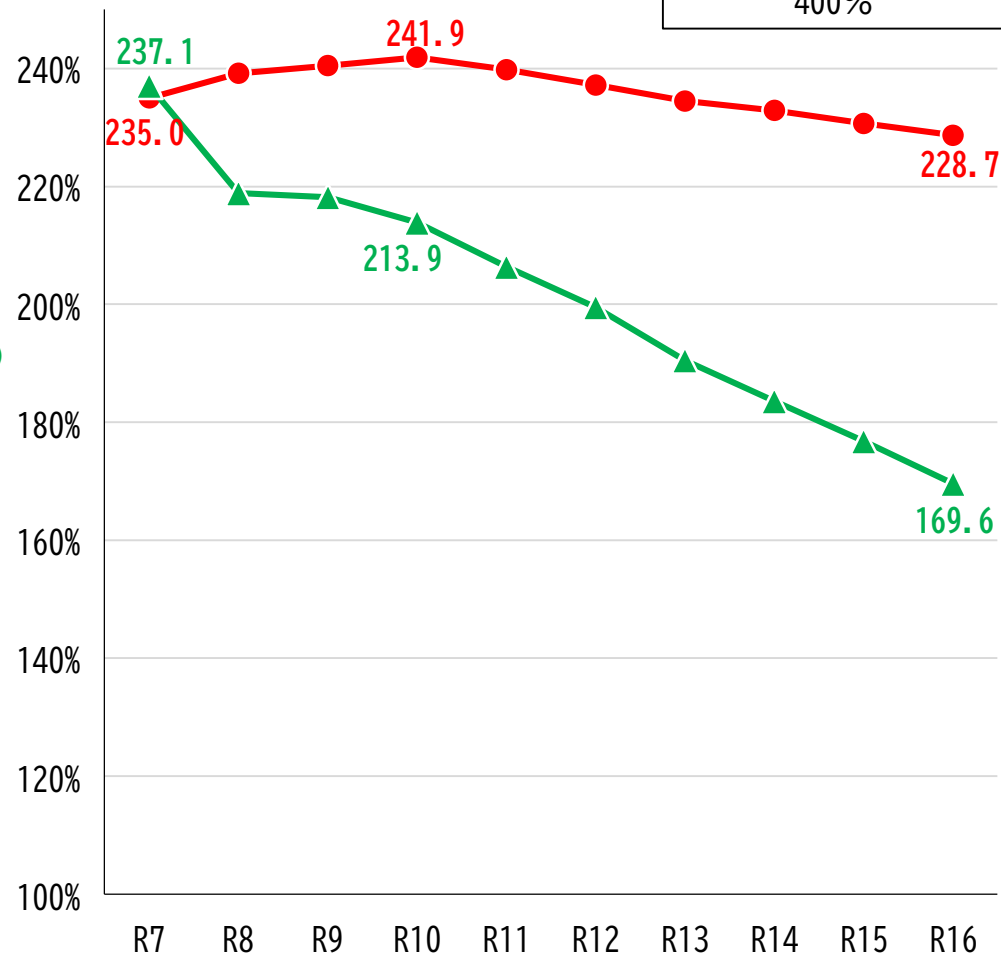
(億円)



## 将来負担比率

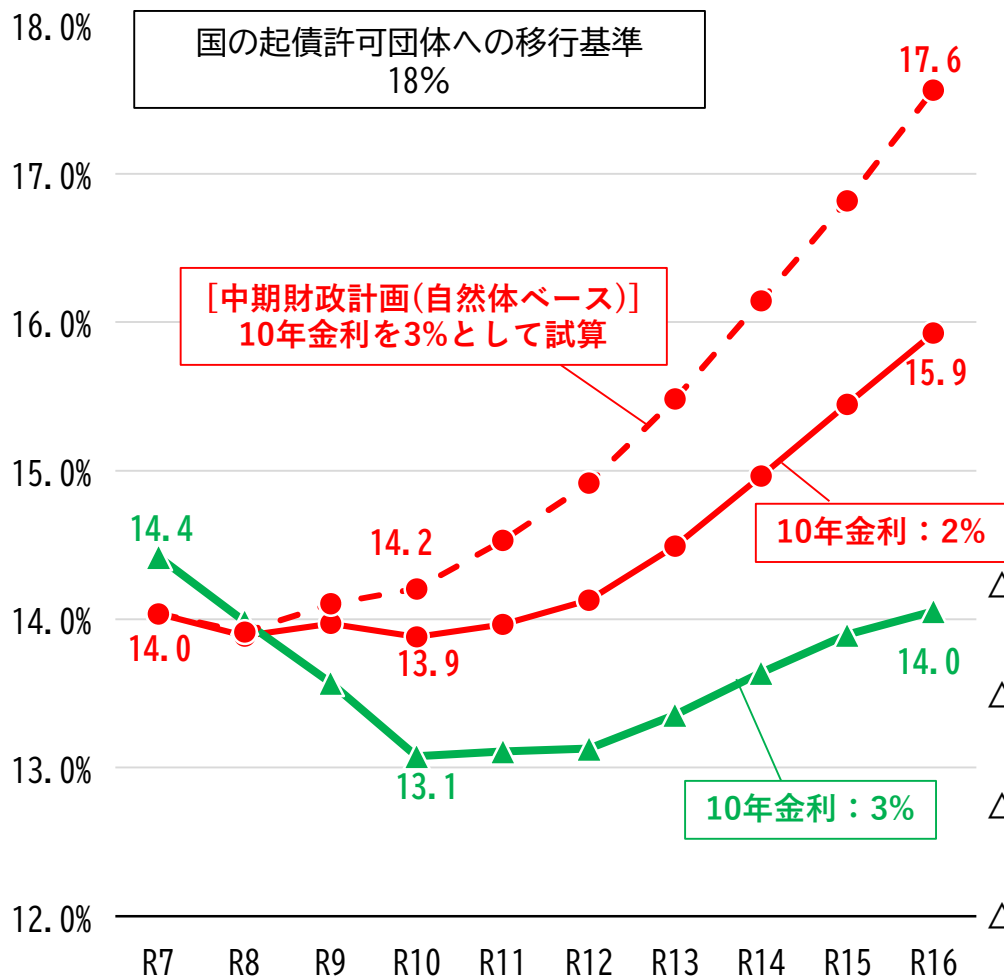
● 中期財政計画 (自然体)  
▲ 今 (改革反映)

国の早期健全化基準  
400%



# 財政指標の推移②

## 実質公債費比率



## プライマリーバランス

